

研修カリキュラム表（介護職員初任者研修課程 通学 ・ 通信 ）

事業者名： 社会福祉法人世田谷区社会福祉事業団

※実施方法については、「実施要綱」別紙3「各項目の到達目標、評価、内容」を網羅した内容とすること。

研修カリキュラム（実施要綱別紙1）	
講義・演習（実習）	
1 職務の理解	6時間
(1) 多様なサービスの理解	
(2) 介護職の仕事内容や働く現場の理解	
2 介護における尊厳の保持・自立支援	9時間
(1) 人権と尊厳を支える介護	
(2) 自立に向けた介護	
3 介護の基本	6時間
(1) 介護職の役割、専門性と多職種との連携	
(2) 介護職の職業倫理	
(3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント	
(4) 介護職の安全	

実施計画		
カリキュラム名・時間数		実施内容
1 職務の理解	6時間	1 職務の理解
(1) 同左	3	(1) 講義のみ
(2) 同左	3	講義および演習:視覚教材を使用し、各サービスについて講義を行い、各サービスについて学んだことをワークシートにまとめ、数名が発表する。
2 介護における尊厳の保持・自立支援	9時間	2 介護における尊厳の保持・自立支援
(1) 同左	6	(1) 講義のみ
(2) 同左	3	(2) 講義および演習:介護の専門性について、グループで検討し、各グループ代表者が発表する。
3 介護の基本	6時間	3 介護の基本
(1) 同左	1.5	(1) 講義のみ
(2) 同左	1.5	(2) 講義および演習:介護職に必要な倫理観について、各自でワークシートに書き込み、数名が発表する。
(3) 同左	1.5	(3) 講義のみ
(4) 同左	1.5	(4) 講義のみ

別記第1号の2様式

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 9時間		4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 9時間		4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携	
(1) 介護保険制度		(1) 同左	3	講義および演習：介護保険の申請からサービス提供までの流れについて、各グループで作成し、各グループ代表者が発表する。	
(2) 障害福祉制度及びその他制度		(2) 障害者総合支援制度及びその他制度	3	(2) 講義のみ	
(3) 医療との連携とリハビリテーション		(3) 同左	3	(3) 講義のみ	
5 介護におけるコミュニケーション技術 6時間		5 介護におけるコミュニケーション技術 6時間		5 介護におけるコミュニケーション技術	
(1) 介護におけるコミュニケーション		(1) 同左	3	(1) 講義のみ	
(2) 介護におけるチームのコミュニケーション		(2) 同左	3	(2) 講義および演習：事例を用いて、実際に介護サービスの記録を行い、数名が記録内容を発表する。	
6 老化の理解 6時間		6 老化の理解 6時間		6 老化の理解	
(1) 老化に伴うところとからだの変化と日常		(1) 同左	3	講義および演習：事例を用いて、老化によるところの変化についてグループ討議し、各グループ代表者が発表する。	
(2) 高齢者と健康		(2) 同左	3	(2) 講義のみ	
7 認知症の理解 6時間		7 認知症の理解 6時間		7 認知症の理解	
(1) 認知症を取り巻く状況		(1) 同左	0.5	(1) 講義のみ	
(2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理		(2) 同左	3	(2) 講義のみ	
(3) 認知症に伴うところとからだの変化と日常生活		(3) 同左	2	講義および演習：事例を用いて、認知症利用者との具体的な関わり方についてグループ討議を行い、各グループ代表者が発表する。	
(4) 家族への支援		(4) 同左	0.5	(4) 講義のみ	

別記第1号の2様式

8 障害の理解		3時間
(1) 障害の基礎的理解		
(2) 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識		
(3) 家族の心理、かかわり支援の理解		
9 ころとからだのしくみと生活支援技術		75時間
ア 基本知識の学習		10～13時間
(1) 介護の基本的な考え方		
(2) 介護に関するころのしくみの基礎的理解		
(3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解		
イ 生活支援技術の講義・演習		50～55時間
(4) 生活と家事		
(5) 快適な居住環境整備と介護		
(6) 整容に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護		
(7) 移動・移乗に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護		
(8) 食事に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護		
(9) 入浴、清潔保持に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護		

8 障害の理解		3時間
(1) 同左	1	
(2) 同左	1	
(3) 同左	1	
9 ころとからだのしくみと生活支援技術		75時間
ア 基本知識の学習		12時間
(1) 同左	3	
(2) 同左	3	
(3) 同左	6	
イ 生活支援技術の講義・演習		51時間
(4) 同左	3	
(5) 同左	3	
(6) 同左	4	
(7) 同左	14	
(8) 同左	10	
(9) 同左	7	

8 障害の理解		
(1) 講義のみ		
(2) 講義および演習:視覚障害や聴覚障害等の体験を行い、体験から学んだことを数名が発表する。		
(3) 講義のみ		
9 ころとからだのしくみと生活支援技術		
ア 基本知識の学習		
(1) 講義および演習:事例を用いて、ICFに基づいたアセスメントを各自で行い、数名が発表する。		
(2) 講義のみ		
(3) 講義のみ		
イ 生活支援技術の講義・演習		
(4) 講義および演習:そうじ、買い物、調理の家事援助に関するポイント、注意点について、グループ討議を行い、各グループ代表者が発表する。		
(5) 講義のみ		
(6) 講義および演習:整容の意義について講義を行い、片マヒ設定で衣類着脱等の実技演習を行う。		
(7) 講義および演習:移動・移乗の意義について講義を行い、ベットと車いす間の移乗等の実技演習を行う。		
(8) 講義および演習:食事の意義について講義を行い、ベット上での食事等の実技演習を行う。		
(9) 講義および演習:入浴、清潔保持の意義について講義を行い、全身清拭等の実技演習を行う。		

別記第1号の2様式

(10) 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	
(11) 睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	
(12) 死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護	
(実習) [※] (50～55時間中12時間以内)	
介護実習	○時間
ホームヘルプサービス同行訪問	○時間
在宅サービス提供現場見学	○時間
ウ 生活支援技術演習	10～12時間
(13) 介護過程の基礎的理解	
(14) 総合生活支援技術演習	
10 振り返り	4時間
(1) 振り返り	
(2) 就業への備えと研修修了後における継続的な研修	
追加カリキュラム	
計	(130時間)

(10) 同左	3
(11) 同左	4
(12) 同左	3
(実習) [※] 時間	
ウ 生活支援技術演習	12時間
(13) 同左	3
(14) 同左	9
10 振り返り	4時間
(1) 同左	3
(2) 同左	1
計	(130時間)

(10) 講義および演習:排泄について講義を行い、おむつ交換等の実技演習を行う。
(11) 講義および演習:睡眠について講義を行い、ベットメイキング等についての実技演習を行う。
(12) 講義のみ
(実習) [※]
ウ 生活支援技術演習
講義および演習:講義にて介護過程の目的や意義について説明(13)を行い、事例を用いて各自で介護計画を作成し、数名が発表する。
講義および演習:事例から適切な支援内容についてグループ(14)検討をした後、検討した内容に沿って一連の生活支援技術の実技演習を行う。
10 振り返り
講義および演習:研修スタート時と修了時とで「介護」についての理解がどのように変化したかグループで話し合い、グループ代表者が発表する。
(2) 講義のみ

※「9ところとからだのしくみと生活支援技術」内で実習を行う場合、12時間以内とする。